

寄田三尺棒踊



寄田町の棒踊りの起こりは諸説あるがはっきりしていない。その昔、農民が自衛のため、六尺または三尺の棒を持って、木刀術を習得したことにあるとされているが、一説には田打ち行事のひとつで、地面を叩いたり、とんとん突いたりするのは田開きで虫追いだとする農耕儀礼説もある。

終戦後しばらく途絶えていたが、昭和38年（1963年）6月17日に新田神社御田植祭に伴う芸能として、鹿児島県無形民俗文化財に指定され、昭和46年（1971年）に青年団によって復活された。平成元年（1989年）からは小学生も加わり活動するようになった。

毎年、新田神社御田植祭にあわせて5月中旬から練習を始める。長老が師匠となり、小学生、中学生、高校生、大人が練習に参加して、世代間交流や青少年育成の場となっている。

奉納の当日は、地域の各公民館や神社で踊りを披露した後、新田神社に出向き奉納している。

【奉納・披露】

日程：新田神社御田植祭の日

場所：新田神社境内